

## 日本初の取組、GHG排出削減プロジェクトがJクレジット登録！

株式会社 なかしべつ ファームノートデーリプラットフォーム(中標津町)

クラウド牛群管理システムを導入した牛舎



固液分離機

## 【組織等の概要】

- 会社名: 株式会社  
ファームノートデーリプラットフォーム
- 所在地: 北海道標津郡中標津町依橋1736番地
- 代表取締役: 小林 晋也
- 従業員数: 15名(令和5年5月現在)
- 乳用牛110頭を飼養し、生乳を年間900トン出荷。  
※酪農DXの推進に向けた実証を行う牧場。

## 【取組の成果】

- 家畜排せつ物の管理方法を「貯留」から固液分離に変更して「強制発酵」させることで年間175トン相当の二酸化炭素の排出が削減でき、発酵後の固形分(マニユアソリッド)は牛の敷料(ベツ)として再利用できた。  
「ふん尿回収→固液分離→敷料→回収」という流れで、環境負荷の低減にも貢献できた。
- 敷料にマニユアソリッドを利用することで、価格が高騰している敷料のコストを削減することができた。固液分離機等の設備導入経費分は6~7年で回収できることが見込まれ、長期的な経費削減につながる。
- Jクレジットを丸紅へ販売し、売却益を得ることができるようになった。

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ (株)ファームノートデーリプラットフォーム(以下「FDP」という。)は(株)ファームノートHD(帯広市)が酪農DXの推進に向けた実証牧場の拠点を設置するため、令和元年8月に設立された。
- ◆ 地球温暖化対策として温室効果ガス(GHG)削減が大きなテーマとなっており、国内における家畜排せつ物由来のGHGが、農林水産業全体の約12%を占め、排出量の削減が課題となっている。
- ◆ FDPのビジョンとして「人が幸せ、牛も幸せな牧場を世の中に広めていく」を掲げ、環境へのアプローチは、持続可能な地球社会への貢献を目指していることから、スラリー(家畜ふん尿)の新たな管理方法を採用することによりGHG削減に取り組むこととした。
- ◆ 家畜排せつ物の管理方法を「貯留」から固液分離に変更して「強制発酵」させることで二酸化炭素を削減できた。
- ◆ GHG排出量の算定やJクレジットの申請・販売のノウハウを持つ丸紅株式会社(以下「丸紅」という。)と協働することにより、令和4年9月に家畜排せつ物管理方法の変更として日本で初めてJクレジット制度の登録を受けた。

マニユアソリッド  
(強制発酵した固形分)

敷料の上に横たわる乳用牛

## 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- GHG排出量を算出するため、月齢別飼養頭数を随時、正確に把握・管理する必要がある。  
⇒ IT化によりクラウド牛群管理システムを使用することで、Jクレジット申請に係るGHG排出量の算出基礎数値などに活用できた。
- 自社でJクレジットの申請手続きをするためには、ノウハウ、人、時間が必要である。  
⇒ 丸紅と協働することにより、Jクレジットの申請・販売へつなげることができた。

## 【今後の展望】

- 人も牛も地域も幸せになり、環境に優しい持続可能な農業の実現に貢献する。
- 酪農・畜産業界全体の生産性向上に取り組む。
- 先進機器を活用した低メタン牛産出プロジェクトに取り組み、ゲノム分析を通じて、GHG削減に貢献する。
- IoT・AI等のデジタル技術と酪農生産技術を組み合わせ、酪農生産のDXの実現を目指していく。